

スポーティーと上質を表現した、走る楽しさ・操る喜びを高めるインテリア

■乗った瞬間からダイナミックな走りを感じるインテリアデザイン

インテリアデザインもエクステリア同様、パッケージングを決めていく段階から開発をスタートさせました。走る楽しさ・操る喜びをよりいっそう高めるインテリアであるために、スポーティーと上質を徹底的に追求。空間の基本骨格を成すインストルメントパネルとコンソールの在り方から見つけ、ダイナミックな走りをインテリアからも感じられるデザインを目指しました。

「走り」を感じさせる上質な空間



インストルメントパネル

インストルメントパネルはドライバーからの見え方によって走りの感覚に影響すると考え、高さの位置決めをテスト車を走らせながら動的に検証。同時にコンソールとの縦横比に着目しました。縦構造のコンソールに力強さを持たせ、横構造のインストルメントパネルは骨格を薄くし、なおかつメーターまわりを目立たせることでワイド感とスポーティーさを強調。さらにソフトな素材で質感を高めるなど、伸びやかで力強い、かつ上質に満ちた、走りを感じる空間に仕上げています。



センターコンソール

電子制御パーキングブレーキの採用によりハンドブレーキレバーを廃したことで、しっかりと縦に延びる力強さを形成。コンソールボックスも大容量を確保できアームレストを後方まで長く伸ばすことで機能性ととも車格も高めています。さらにコンソール前部には運転席からも助手席からもアクセスできるポケットを設けた、ハイデッキ構造を採用。アクセサリソケットを備え、スマートフォンなどを充電しながら置くことができます。



マテリアル／加飾パネル

インストルメントパネルアッパーには柔らかく上質なソフトパッドを採用しました。そのうえでさらに質感を高める加飾パネルを配置。セダンには見る角度によって色彩が変化するメタル調パネルを、ハッチバックにはスポーティーさを高めるカーボン調パネルを採用しています。

